



赤羽別院報 第48号
発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX (0563)72-2308
Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

もう済んだと思っていたが まだ始まっていなかった



たわけです。ですから、それを排除するために廃仏毀釈というものが起こったのです。排除して残るのは、日本古来の神道だろうと考えた。

法難に学ぶ、歴史に学ぶ

私にとって過去というのは、自分たちの未来を映す鏡であると思っておりますので、私たちの将来の問題として、大抵騒動の問題を考えていくことが大事であると思っております。

横型宗教史観

私たちの宗教史観では、仏教を縦型に考えてきました。お釈迦さまがいて、龍樹菩薩・七高僧・親鸞聖人がいて、私たちがいる。普通は縦型に考えますが、私は、これを一度横にしてみたいですね。



なっているんですよ。ブラフマンというインドの神様が降りてきて、覚りを開いたお釈迦さまに、どうか説法をして下さいと請う、梵天勧誘という話があります。

■講師プロフィール
武田 定光 (ただけ さだみつ)
1954 (昭和29) 年 東京生まれ
大谷大学文学部博士課程修了
元 親鸞仏教センター 嘱託研究員
現 東京教区 因達寺住職
著書「新しい親鸞」「親鸞抄」
「なぜ?から始まる教興抄」他

たまわりたる信心

親鸞聖人が法然上人の門下に入った頃「信心一異の評論」という出来事がありました。

大勢が先輩が中々「私」の信心は法然上人の信心は一つと皆が怒り出しました。そこで聖人は「智慧才覚が一つだと言っています。往生の信心が一つだと言っているんです。先輩方は納得せず、上人の考えを真したところ「私の信心は如来から戴いた信心です。親鸞の信心も如来から戴いたもので、一つなんです」と仰りました。

「真宗のお寺」を建てた功罪
浄土真宗は、親鸞聖人の当時はお寺はなかったんです。お寺にしたのは、親鸞聖人から四代目の孫の覚如上人です。親鸞聖人が亡くなられてか

親鸞仏教のルール

仏教にはルールというものがありません。簡単なことでも、だれでも「修行信証」を絞り出せば出てきますが「いつでも、どこでも、だれでも」真実と一つになることができる。これ

「真宗のお寺」を建てた功罪
浄土真宗は、親鸞聖人の当時はお寺はなかったんです。お寺にしたのは、親鸞聖人から四代目の孫の覚如上人です。親鸞聖人が亡くなられてか



頑張りろ熊本!
早期復興を願う

報恩講 ほうおんこう
10月14日(金) 初速夜 午後1時30分
10月15日(土) 法話 第10組 殿西寺 藤原 肇 師
10月16日(日) 法話 四日市 浄圓寺 大賀 光範 師
10月17日(月) 結願晨朝 午前10時
結願日中 午後1時
法話 第17組 正法寺 山崎 秀健 師
除夜の鐘 じゃやかかね
12月31日(土) 午後11時30分より
鐘撞きは先着順・どなたでも可
甘酒・菓子等を用意しています。
修正会 しゅしょうえ
1月1日(日) 午前1時(初鐘に引き続き)
法話 輪 番 三浦 真教 師
晨朝法話 じんじょうほうわ(午前7時)
10月13日(木) 第13組 安休寺 雲英 真入 師
10月28日(金) 同 教養寺 間島 亨 師
11月13日(日) 第14組 専興寺 浅野 怜 師
11月28日(月) 同 西光寺 清澤 善 師
12月13日(火) 第8組 順覺寺 山田 智永 師
12月28日(水) 同 専念寺 羽向 智洋 師

小山正文師の法話を開催

秋の気配を感じさせる8月25・26日の両日、恒例の御坊さん講演講座が開かれた。法話講師には、第16組本尊寺前住職・小山正文師を迎えて、初日に「正信念仏偈」の偈、二日目は「親鸞伝」にみる聖人と題してお話をいただいた。

師は「正信偈」を唱和する浄土真宗の伝統と、宗祖が讃嘆された七高僧の業績について説明された。

その中で、親鸞聖人直筆の「正信偈」の原本を披露され、宗祖が亡くなるまで何度も何度も手直した痕跡を示して、その経緯を解り易くお話し下さった。

また、宗祖の集大成でもある「教行信証」が、現在も多くのの人々により研鑽されておられ、まさに「真宗の根本聖典」であるとお話された。

二日目には「御伝抄」下巻の最後の2段について師の見解を聞いた。師「御伝抄」とは、親鸞聖人の孫である覚如上人が、宗祖の生涯を15段に分けて話を綴った絵巻物である。真宗大谷派では康永本原文を底本として、一般寺院に下附されておられ、報恩講の初夜に拝読されるのが通例となっている。

師がお示しになった覚如上人直筆の絵巻物は、重要な文化財に指定されており、貴重な資料を拝見できた。

下巻の5段には、帰洛されてからの様子が記されているが、60歳頃から亡くなるまでの約30年間は、精力的に著述に励まれたものと思われる。

また、その間には火災事故や、子息である善鸞義絶といった悲しい出来事にも

遭遇されている。最後の2段は、ご臨終と葬送の場面が切々と綴られており、これらことは御絵伝にも描かれている。

その後、残された門弟たちは、聖人の遺訓を書き記すなどして後世に伝えている。師は「このようにして、我々の先達は幾多の苦難を乗り越え、宗門を崇敬護持してきたのです。その歴史を深くお考えいただきたい」と結ばれた。

赤羽ブロック世話会 総会を開催

昨年、会の名称を改めて再出発した「赤羽ブロック世話会」の総会が、7月15日に開催された。

三浦輪番並みに田中弘会長(第10組法務司)の挨拶に続き、活動報告・会計報告が行われた。

新体制移行後の総会とあって出席者も多く、活発な意見交換と質疑応答の場となった。

6月2日実施の研修旅行に際し、初対面者が多かったため名札を用意する・昼食は全員で会食する等改善を望む発言があった。また、10月の報恩講に

法宝物調査を実施

紙面の都合により報告が遅くなりましたが、去る4月26日、赤羽別院の法宝物調査が実施されました。

残念なことに、三河地震で諸堂を失って以降、保管施設がないうえに、管理する人もいない状態におかれているため、全ての物が保存状況不良と見受けられ、取扱にも慎重かつ丁寧に行われました。

多数の軸類の他に「報徳会法名記」や「特別祠堂帳」など、当時を知るうえで貴重な資料も多数あり、また、歴史的にみて貴重な物と推察される四角形の打敷が残されていました。

今後、保存施設の確保をはじめ課題が多く、抜本的対策が求められる調査結果となりました。

平成28年度 通常院議会開催

6月6日、平成28年度赤羽別院通常院議会を開催、議員総数34名中委任状出席を含む25名が出席し、上程された平成27年度経常会計及び特別会計決算案並びに平成28年度両会計予算案は原案どおり可決承認された。

本多友明師の法話 夏の御文

7月15日「夏の御文法要」がお勧めされた。

本願寺八代・蓮如上人が亡くなる前年、明応7(一四九八)年に書き遺された「夏の御文」のうち、本年は四通目が第8組福正寺・本多友明師により拝読された。

師の法話では、御文の言葉を引きつ、失って初めて解る既に載っている喜び「慶喜」について、「歡喜」とも照らし合わせながらお話された。

第30組門徒会 ご一行来院

6月6日、第30組(豊田町下山区)門徒会一行13名が研修事業の一環として来院・参拝されました。

当日、別院は殉教記念法要で、講堂のお御堂は法話の最中であつたため、一行は庫裡に招き入れられました。

赤羽別院の世話方さん

このたび、赤羽別院の世話方として新たに二名が就任、これまでの三名と併せ五名となりました。全五名の世話方さんは次のみです。

三矢 平市 養林寺門徒 敬称略
加藤あさみ 無量寿寺門徒
外山 初枝 慶徳寺門徒
川原 玉枝 永覚寺門徒
杉浦眞智子

加藤・川原・外山・三矢・杉浦さん

赤羽別院の歴史 その7

戦争激化

しかし、昭和12年に開戦した日中戦争・同14年の第一次、同16年の第二次世界大戦と、日本は戦時色の真の只中にあつて、戦況は次第に苦況に追い込まれていった。

この状況下、人々の生活にとどまらず、仏教も耐乏を強いられ、昭和18年には一般家庭や寺院に対して金属類の供出を強いられた事となり、寺院では金属製仏具や梵鐘までもがその対象となった。

お内陣の仏具は陶器製に変わり、3月には幡豆郡の各寺院に梵鐘の供出命令が下され、別院では3月5日に人々が見守る説経のなか、関係者や村

三河地震発生

昭和19年12月7日の昼間に東南海地震が発生し、山門は長時間揺れたといわれているが、別院の建物には別段の損傷はなかった。

昭和20年1月13日午前3時38分に、局地的大地震「三河

地震」が発生した。地震一が発生した。夜明けとともに別院に集った総代や世話方衆の目に映ったのは、山門と本堂を残して20棟余りの諸堂が折り重なり、瓦礫の山と化した見ると、無惨な光景であった。この日は余震が頻繁に発生して本堂内に入ることを見合わせ、御本尊・阿彌陀様の安否を確認するには至らなかった。

翌14日、余震が続くなか本堂に入り阿彌陀様の無事は確認されたが、仏具や天井の飾りや環塔等は床に落下して破損、使用不能であることが確認された。

この日の午後、別院総代・隣村の門徒総代衆や門前衆で今後の対策が協議され、その日の内に隣村の人達にも、片付け作業等の段取りが伝達されることとなった。

「赤羽御坊の一大事」とばかりに、毎日50人を超す人々が片付け作業に従事され、1ヶ月余で大方の片付けは終了した。片付け作業に並行して、大工衆の手により廃材利用の約15坪の「集会所」の建設が進められ、2月1日に竣工したが、

13号台風襲来

この地震による宗教区内の人命・家屋等の被害は甚大で、三河における仏教は加速的に衰退の一途を辿り始めたが、追い打ちをかけるが如く、昭和28年9月には台風13号がこの地を襲い、沿岸部の護岸堤防が壊滅的な被害を受けた。洪水による冠水被害を受けた。赤羽別院は高台に位置することもあり、強風による樹木等の被害にとどまり、建物・構築物に目立った被害は見られなかった。

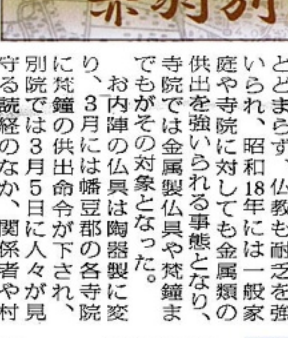
しかし、西三河沿岸部の村々は被害が甚大で、天災に次ぐ天災で人々の脳裏から、神仏の存在が消え失せる世相となり、信仰心の希薄化が一段と進行する事態となった。



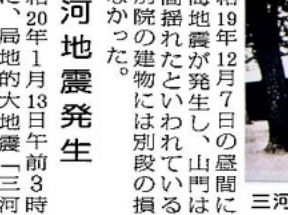
御文拝読・本多師



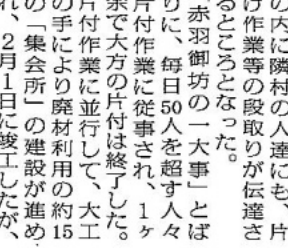
ご来院された皆さま



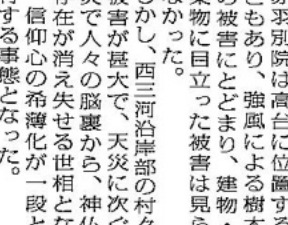
加藤・川原・外山・三矢・杉浦さん



三河地震で倒壊した大広間と庫裡



寺院の機能を果たすには不十分なものであった。



当時の、戦況不利の太平洋戦争末期で、兵士や国民の志気の低下を恐れた軍政府は、この地震の情報を伏せて世間に発表されるのがなかつたが大自然災害であった。

今年も盛会 夏の勉強会

異常ともいえる、お盆過ぎでの連日の酷暑の中、各組が主催する夏の勉強会は、6組・18会場において延20日間にわたり開催された。年々充実を見せる勉強会は、第11組が1ヶ寺を会所に取組む「阿弥陀講座」をはじめとして、いずれも大勢の聴聞者で賑わいを見せ、等しく盛会であった。

真城義磨師 第8組 同朋大会他



残暑の厳しい中第8組では、8月20日に同朋大会・青壮年の集いを宿務寺、同21日には同朋教室を専念寺において、何れも満室の中で開催した。講師には6年連続で今

水島見一師 第9組 祖父江佳乃師

第9組では、崎豆町の福泉寺を会所に8月26日・27日の両日、夏期講習会が開催された。

初日は、大谷大学特別契約教授の水島見一師より「同朋会運動の精神」という講題のもと、師が同朋会運動の原点であるとする清沢瀉之の思想が、どのように継承されてきたのかお話しされた。



二日目は、名古屋市中、有隣寺住職の祖父江佳乃師が「今を生きて」親鸞聖人御一代記より」を講題として、親鸞聖人の教

11ヶ寺で開催 第11組 阿弥陀講座

第11組が取組む「阿弥陀講座」は、組内11ヶ寺を会所に開催された。

「名号・煩惱・普恵・衆生・他力・信」の六つは救われる。ところが、このキーワードをテーマに、11人の講師は軽妙な語り口で説かれ、私たち衆生が忘れていた阿弥陀様の信じるのひとりの一人が普賢の日のひらきの中で、煩惱にま



阿弥陀様のお声が早朝の念仏として、私たちに届けられた講座でした。 於 善福寺・青木一範師

中村薫師 第12組 宗講座

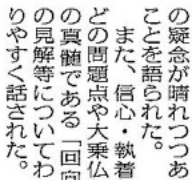
8月20日、第12組は本誓寺に中村薫師を招き「釈尊の生涯に学ぶ」をテーマに、夏期真宗講習会を開催した。



訪れた聴聞者は心頭を滅却して、師の語に引き込まれていた。釈尊の「入道」の意味に始まり、「六道」「地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上」を自身

藤場俊基師 第13組 夏期真宗講習会

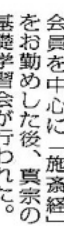
猛暑が続く7月11・12日の二日間、恒例の夏期真宗講習会、明榮寺並びに教榮寺を会場にして開催された。



両日とも、会場には熱心な聴聞者が集い、金沢教区常任住職・藤場俊基師の法話に耳を傾けた。

真城義磨師 第14組 夏期真宗講習会

第14組(碧南市)では、毎年二日間の夏期真宗講習会を開催している。



その内容は豊宣で、初日は午前・午後に住職・寺族を対象に聖典学習会とした講座に、今年も一八〇名に及ぶ聴聞者で

二日目は、終日門徒



会員を中心に「施齋經」をお勧めした後、真宗の基礎講習会が行われ、

昨年が続いてお招きした、四国教区普照寺住職・真城義磨師は、和やかな語り口で、うんちくのある話の中で、真宗門徒は「一仏に照らし合わせ自身を見つめ直していく生活である」と話された。

島根に妙好人の逸話を訪ねる 第9組

第9組では、毎年恒例となっている住職研修で、全国の様々な寺院や、妙好人(信心の篤い念仏者)を宗派を問うことなく訪ねている。

本年は、去る6月20・21日の両日、島根県の妙好人といわれた、故・有福の善太郎さん(昭和の妙好人)といわれ、原才市さん(緑の安楽寺を訪ね、それぞれ、住職や坊主さんから貴重な話を伺った。

妙好人縁りのお寺は、突然の訪問であったが、共に温かく迎えて下さった。

有福の善太郎さん 暮末の一八五六年に75歳で亡くなった、島根県有福の善太郎さん。5歳で母親と死別し、青年時代は毛虫の悪太郎と恐れられる厄介者であったが、結婚後11年の間に幼子4人に2・3歳で次々と先立たれ、深い悲しみから人生の意味を問う問法生活が始まった。

その後、ついに念仏の法に巡り合い、喜びの人生となった。光現寺の鐘の音が聞こえる小高い丘に家を持ち、鐘の音が聞こえると「はい参ります」と返事をしながらお参り。訪ねてきた旅人が善太郎さんの家を探ると、「善太郎は私ですが、家は持っておりません。如来さんの家において暮らしておりますよ」と。

秋の夜、若者が木に上って梨を盗んでいるのを見て、梯子を木にかけ「若い衆、暗いから怪我をせぬように取って帰んなさい。なんまんだぶつ、なんまんだぶつ。」

善太郎さんが泊った宿で、着物が一枚なくなる事件がおこったが、女中の悪知恵で善太郎さんが濡れ衣を着せられ犯人にされたことがあった。

次の年、善太郎さんを訪ねた宿の主人が事件を質したところ、反論することなく着物の



安楽寺山門前

自分の肖像面を見て、顔に角が生えていないのは、自分の本当の姿ではない、と2本の角を書き加えさせたこともよく知られている。

石張 ■ 石積 ■ 石工事一式

墓石 記念碑

神谷石材店

西尾市菱池町平池40 (福地郵便局南)

TEL・FAX 0563-56-3517

自宅 0563-56-3902

お仏壇をきれいにして 報恩感謝をいたしましょう

お仏壇のお洗濯、お仏具のお磨きや修理、お預かり、移動など 岡崎の愛知屋にお任せください。

お仏壇の **愛知屋**

0120-0564-08

岡崎市能見通1丁H81 TEL0564-21-3341(代) 9:30~18:30 火曜定休 ※夏期は9:00~19:00

葬儀館 **TEAR**

ティア碧南・西尾

お問い合わせ先 年中無休・24時間承ります

ご予約・ご予約

0120-594394

尾張門徒の念仏道場 名古屋市中 名古屋別院を訪ねる

この春、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要が九日間に行われ、厳修された。この間、広い境内のあちこちで記念講演をはじめ各種イベントが催され、庭儀(稚児行列)には稚児が千名を超す大行列となり、名古屋の街を大いに賑わせた。梅雨明けで真夏の太陽が照りつける一日、御遠忌が円成し、新たな一歩を踏み出した名古屋別院を訪ねた。

積尊の誕生から日本に仏教が伝わるまでの物語が、解説文つきのリーフレットとなって並べられている。「東別院参道」を進むと、程なく圧倒されるような山門前に到達する。この山門は、昭和43年に建てられたもので、昭和20年3月空襲により焼失した旧山門は、赤羽別院の山門のモデルとなったといわれている。

名古屋別院は、江戸幕府が開かれた十七世紀、城下町として繁栄をみた名古屋に御坊を「地元の門徒衆の篤い思いが本願寺第十六代・一如上人に願ひ出され、尾張藩主・徳川光友により一六九〇(元禄三)年に城下にあった袋町・泉龍寺の御坊取り立てが許された事に由来する。



左・本堂 右・対面所

一六九一(元禄四)年に光友から、織田信長の父信秀の居城で、信長が元服の式をあげた地である古渡城跡の現在

廣瀬惺師の真宗講座 「御文に学ぶ」を拜聴して

「御文」は、真宗門徒にとって「蓮如上人のお言葉を通して教えに遇う」まさに金言でありましょう。手垢がいつい付いた真つ黒な「御文」を手に取るたび、その果してきた役割は計り知れないものがあると思えます。第二回の講義の質疑応答の場でも第20願の意としか読めない「この質問は厄介で、江戸時代に西本願寺において10年間に亘り、異安心問題として論争が繰り返された」との事で、師は宿題として持ち帰り、次回に詳しく説明して下さいました。即ち、「御文」には「後生たすけたまえ」「弥陀をたのめ」と繰り返して示されています。ここに言う「たのむ」には、「たのみにする」と「お願いする」の二義ありますが、宗祖の教えでは前者の「たのみ」の意で、おのづから「たのむ」の意であります。私が帰命せよ(たのめ)と仰せられ、そのお心が衆生に聞こえた姿が信心(たのむ)である、と味わっています。更に、「たすけて給え」は、たすけに尊敬の意を表した「給え」が付いた形で、「おたすけて下さいませ」という意味だと思われると話されました。また、一回目に首我量深師の「はじめに名有り、三回目には「たすけるは如来の仕事」と安田理深師のお言葉をお話し下さいました。つまり、我々衆生が願う前から「まかせよ、たすけて」の先手のお救いが第18願のころではなかったかと受け止めている次第です。

第9回子ども絵画展

- 9回目となる子ども絵画コンクールには多数の応募をいただき、関係者で慎重に審査の結果、次の皆さんの作品がそれぞれ金賞及び銀賞に選ばれました。
- 優秀作品はお御堂内に掲示され、去る8月25日に受賞者を赤羽別院に招き、三浦輪香(り)一人ひとりに賞状に記念品を添えて頒布され、緊張の中に笑顔がみられました。
- | 金賞受賞者 | |
|-------------|-------------|
| 一年 榎原庄之亮 くん | 二年 小嶋 七海 さん |
| 三年 川上羽佑流 くん | 四年 堀内 菜々 さん |
| 五年 手島 翼 くん | 六年 立野 秀 くん |
| 銀賞受賞者 | |
| 一年 牧野 結愛 さん | 二年 岡村 郁花 さん |
| 三年 杉浦麻望香 さん | 四年 山田 凛 さん |
| 五年 手島 隼 くん | 六年 小林 千歩 さん |



受賞された子どもさんたち

お寺の保存樹木



枝張りが見事なイブキ

西尾市指定・保存樹木
西尾市中町54
第1組・聖運寺境内
指定・昭和51年5月

イブキ
根回り 四・二米
胸高幹 二・五米
樹高 一五・〇米
枝張り 一二・三米

崇敬寺院の新任職



第10組・明泉寺 御館 諒 師

平成28年5月28日就任 (ひとこと) このたび、真宗本廟において明泉寺住職に任命されました。住職を継承するにあたり、大谷派僧侶としての自覚を新たにし、その責を全うすべく御門徒様と共に歩んでまいりたいと思っております。

ナイス・ショット!



釈迦の生誕を彷彿

西尾駅から南へ車で5分、のどかな田園地帯の一角に、毎年赤や白の鮮やかな花をいっぱい咲かせる蓮池がある。この蓮池の彼方には、厳かな寺院の姿を窺うことができ、釈迦の生誕を彷彿させるものが、第12組・徳行寺とその蓮池で、カメラを手に大勢の人々が訪れている。

第14回御坊俳壇・川柳

- 俳句(順不同) 選者 三浦 良美氏他
- 話また 昭和へ戻る 夕端居
夏萩や 本堂裏に 風の道
天明と かすかに読める 蒸流う
赤羽の 桜に集う 帰敬式
親鸞の 言葉にふれ 花の寺
帰省の子 仏間に座して 先ず合掌
山門の 風を捉えて 走り萩
一ひらを 風を遊ばせ 連散華
別院の 大樹を揺らす 蟬時雨
満天星の 咲ききっており 風の中
- 川柳(順不同)
- 極楽へ 道順尋ね 寺参り
扇子出す 左回扇と いかぬ世に
花の来 帰りは静か 来疲れ
お知らせ 定例の第15回御坊俳壇・川柳の締切は11月5日(土)です。奮って応募下さい。
- 佐藤 哲也
大沢 美恵
柏谷 弘子

お寺の掲示板

あなたちは 戦争の被害を 放棄する国民に なりたいですか 第十四組・蓮成寺

赤羽御坊新聞懇志

第十組 明泉寺様
貴重な懇志を ありがとございました。

編集室

今年の夏はリオ五輪が開催され、我が国の選手の大活躍もあり、いつも以上に多くの涙を見ました。選手達の嬉し涙・悔し涙の美しい涙。一方、障害者施設襲撃や各地で発生したテロ事件等で、無差別に尊い命が奪われた悲惨な涙。また、今日でも各地で勃発する戦争が問いかける、忘れてはならない涙など色々な涙があったが、最も印象的だったのは「イチロー」の涙です。プロ野球大リーグ・マリンスのイチロー選手が、メジャー通算三千本安打の偉業を成し遂げた直後、ベンチでサングラスの下でそっと流した一筋の涙。また、記者会見で、うすすらと目ためた涙。普段は、クールで冷静に対応する彼にしてはとて珍しいことです。孤高の天才打者といわれるも、今年は代打での起用が多く、憔悴たる思いのなか、感極まってみせた涙である。更なる記録に挑戦してもらいたいものです。ところで、この記者会見での彼の発言「僕が何かをすることで、僕以外の人たちが喜んでくれることが、今の自分にとって何より大事なことで、ということ」を、再認識した瞬間でした。を聞いて確かめたいことがあります。この夏の研修会で、講師が仰しかった「共に念仏を申し、浄土へ往ける仲間がいることを喜べるのが大事です。」この言葉とイチロー選手の発言は、はたして共通するものか、どうか。そして、筆者もいつか「歓喜の涙」を流してみたいと思います。